

石川迪夫先生の近著紹介

平成 26 年 4 月 26 日

提案者 松岡 強

石川迪夫先生の近著の「考証福島原子力事故『炉心溶融・水素爆発はどう起こったか』」（日本電気協会新聞部 2014 年 3 月 28 日初版）の本を読みました。やっと本物の事故調査報告書に巡り会えた思いです。これまで鳴り物入りで世に出た事故調査報告書は何れもドキュメンタリーの域は出ず、また意図的に人災と結論づけるものばかりです。これも原子カムラを排除したことによる事故調査委員会メンバーの能力不足を如実に現している証左でもあると思っています。

この本を読み今回の福島原子力発電所がどのように炉心溶融・水素爆発していったかが手に取るようにわかりました。また、不勉強の極みというべきですが、TMI 事故についてもわかりやすく解説されており、初めて炉心溶融の実態を知りました。加圧器逃がし弁の開固着が見つかり、閉弁以降事態は収束に向かったかと思っておりましたが、実際はそれから炉心溶融へと進展していったとは知りませんでした。この TMI 事故等々のデータから解きほぐして、一見ばらばらの福島 1, 2, 3 号機原子力発電所の炉心温度、圧力、水位、格納容器圧力等々を関連付け、明確に解明しているこの著書には感服いたしました。炉心崩壊・溶融には崩壊熱よりも、水ジルコニウム反応熱のほうが大きい影響を与えるということ、また崩壊熱だけで炉心が灼熱状態になると燃料は林立したまま放射熱支配の状態がかなり続くということも目からうろこでした。水の注入がじわじわと起こった今回の福島事故では水の注入量・流れに異変が起きたときに炉心崩壊・溶融が生じたこともよくわかりました。

このような本が出てやっと日本の原子力技術者も健在であると思われたいと思います。ぜひ広く世界に発信していただくべきだと思います。石川先生のこの事故解明を世に広めないといつまでたっても福島の事故はまだ何も解決していないということになると思います。まずは原子力関係者がその内容を十分に理解することが必要だと思います。それを受けて初めて真の対策があると思います。今の原子力規制委員会は何もわかっていなくて手当たり次第に規制を強化していますが、早く歯止めをかけないといけないと思います。その技術的バックデータになると思います。

以上